

第3回麻しん対策推進会議
平成21年2月20日(金)

CMの効果から見た今後の麻しん 地域運動の戦略

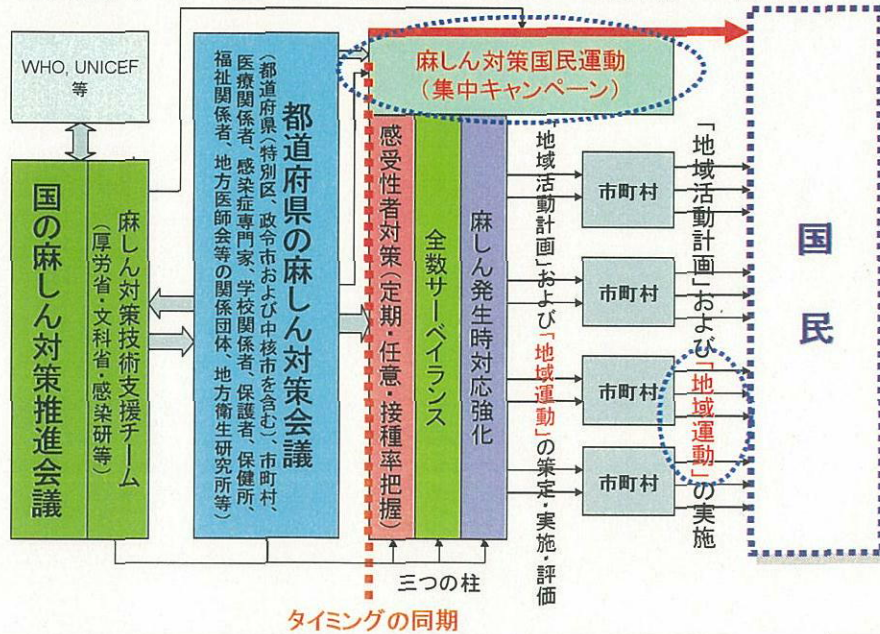
砂川 富正

sunatomi@nih.go.jp

国立感染症研究所・麻しん対策技術支援チーム

(本調査結果は、「沖縄県はしか“0”プロジェクト」との共同
研究によるものである)

背景(1): 麻しん排除に向けた活動の骨格



背景(2): 集中キャンペーン用の媒体作成

- 行政機関、医療機関、教育機関の関係者を対象：
 - 麻しん啓発DVDの作成(感染研感染症情報センター第3室)
 - パンフレット・リーフレット(厚労省、文科省、日本医師会等)
- 一般啓発用、麻しん風しん(MR)ワクチン接種対象者・保護者向けアピール用：
 - “Kiroro”さん(国の麻しん対策推進会議委員)の全面的協力
 - 麻しん風しん啓発テレビ・ラジオCMの作成
 - 沖縄県内での試験的放送(4月~6月)
 - ポスターの作成、全国への配布(合計約265,000枚)
 - 厚生労働省配布(各都道府県・市区町村) 約 59,000枚
 - 文部科学省配布(中学、高校) 約 36,000枚
 - 日本医師会配布(会員) 約170,000枚



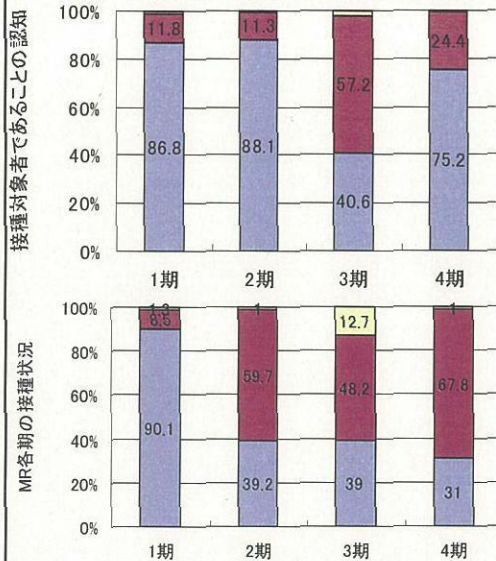
検証: テレビ等のCM効果に関する評価

- 対象: 沖縄県内在住のMRワクチン対象者の保護者(第1期・2期) および対象者(第3期・4期)
 - 第1期: 1歳半健診(保健センター)(2ヶ所)、第2期: 幼稚園(46園)、
 - 第3期: 公立・市立の中学校(12校)、第4期: 公立・市立の高校(14校):
- 期間: 2008年7月中旬(夏休み直前)
- 方法: 自記式アンケートの記入(回収率: 99.3%)
 - 主な制約: 各期の調査対象者数の割合、地域の選定、が均一の条件でない

アンケート調査対象者実数		総計	男性	女性	回答なし
第1期(保護者)	計	152	13	139	0
	%	1.0%*	8.6%	91.4%	0.0
第2期(保護者)	計	1,783	76	1,692	15
	%	10.5%*	4.3%	94.9%	0.8
第3期(対象者)	計	2,160	1,104	1,038	18
	%	12.1%*	51.1%	48.1%	0.8
第4期(対象者)	計	3,313	1,497	1,797	19
	%	18.5%*	45.2 %	54.2%	0.6
総計(人)		7,408	2,690	4,666	52

(*) 沖縄県HPからの以下年齢別人口情報を分母として推定(2005年): 1歳 15922人、6歳 17,058人、13歳 17,811人、18歳 17,937人

結果(1): MRワクチン接種対象者であることの認知および実際の接種行動(7月時点)



- 接種対象者であることの認知

- 1期・2期で90%近く

- 3期は40%程度

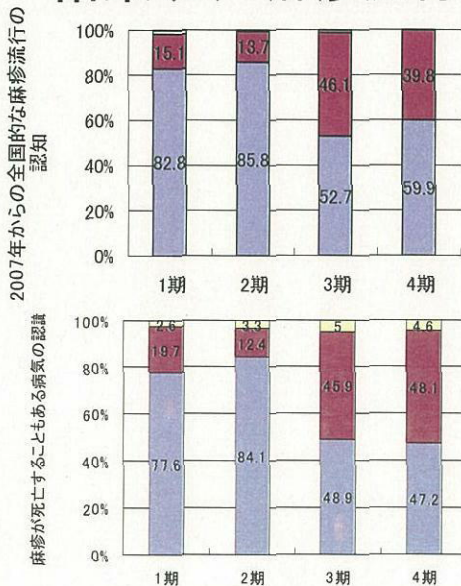
- 4期は75%

- 7月中旬の接種率

- 1期以外は全て30%台に低迷

- この時期、特に2期・4期は認知度と接種率の乖離が大

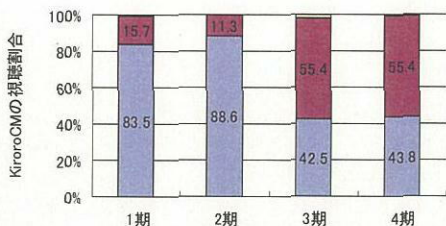
結果(2): 麻疹流行および重症度の認知



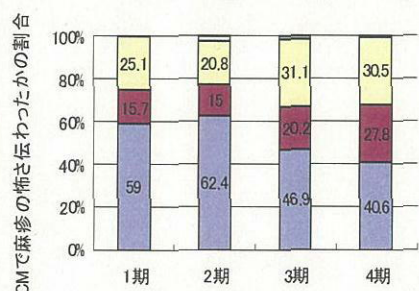
- 1期・2期は、麻疹が流行し、死亡する病気でもあることを80%前後が認知

- 3期・4期は麻疹が流行したこと、死亡する病気であることを半分程度しか知らない

結果(3): CMの視聴割合および麻疹の怖さ についての情報伝達

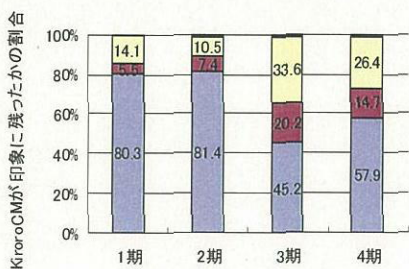


- Kiroro CMを1期・2期においては90%近くが視聴、3期・4期は40%強が視聴

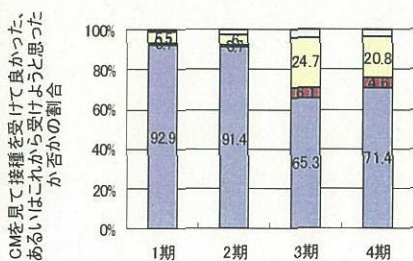


- CMIにより麻疹の怖さが伝わったと答えた者は、1期・2期で約60%、3期・4期で40%台

結果(4): CMの印象深さ、および接種への プラスの動機付けとなったかについて

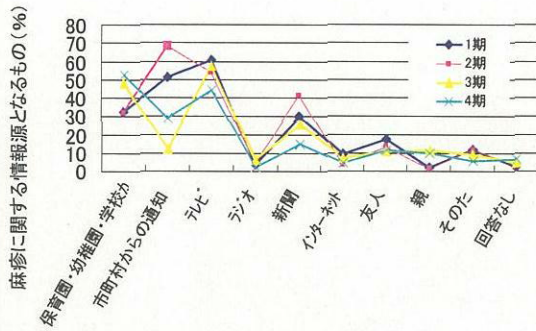


- 印象深いと答えた割合
 - 1期および2期で80%以上
 - 3期においては45%
 - 4期は60%弱



- 過去、今後のMRワクチン接種にプラスのイメージを得た割合
 - 1期および2期で90%以上
 - 3期では65%
 - 4期では70%強

結果(5): 麻疹およびワクチンに関する情報源



- テレビは全期を通して1位あるいは2位を占めた
- 1期・2期においては市町村からの情報、3期・4期は学校からの情報が重要と考えられた

表: 各期における上位4位までの情報源

	1位	2位	3位	4位
第1期	テレビ(60.5%)	市町村からの通知(51.3%)	保育園・幼稚園からの通知(32.8%)	新聞(30.2%)
第2期	市町村からの通知(68.4%)	テレビ(54.4%)	新聞(41.3%)	保育園・幼稚園からの通知(32.3%)
第3期	テレビ(57.6%)	学校からの通知(48.5%)	新聞(25.8%)	市町村からの通知(12.4%)
第4期	学校からの通知(52.7%)	テレビ(44.4%)	市町村からの通知(29.1%)	新聞(14.7%)

考察および提言(1)

- 1期・2期対象者:
 - **麻しん対策への関心が高く、CMへの関心・共感も最も大きかったグループであると考えられた**
 - **これらのグループにおけるCMの有用性は高かった**
 - もともと幼児～年長児の保護者としての麻疹への関心が高い可能性
 - Kiroroへの親近感が最も近い年齢層・保護者としての共感が影響している可能性
 - **これらの期への対応としては、市町村からの情報伝達による、現行の個別接種の強化継続で良いと考えられる**
 - **この年代への媒体戦略として現行の方向性を継続可能**
 - **2期対象児保護者が早期に接種行動を起こすための対応が必要**
 - 接種対象であることを認知しているが接種行動が遅い

考察および提言(2)

- 3期・4期対象者:

- 特に第3期は接種対象者であることの認知・麻疹の知識ともに最低であり、接種率も低かった

- これらのグループへのCMの有用性は不十分であった
 - 情報伝達および接種の実施についても、第3期・4期ともに個別の勧奨のみでは不十分である可能性が高い
 - 学校からの情報伝達は極めて有効であり、集団の場を用いた接種などの検討も有効であると考えられる
 - この年代に特化して有効な媒体の研究開発が必要
 - 第4期は受験・就職を控えたこの年代が接種しやすい環境作りが必要

- 接種対象者であることの認知は比較的高かったが、接種行動に結びついておらず、理由の把握と対策が必要